

- ②⑧ 同前
二十二……今期設女學。各得自有之權……公議凡真正節婦之女。即非體泉芝草。亦宜破格栽培。最以專仍師範一門。秉貞母之賦界。先覺覺後覺。或冀形端表正。防微杜漸。其庶幾乎。
- ②⑨ 同前 3189頁-3190頁
- ③⑩ 同前 3190頁
二十六草創之始。經費未充。擬先設堂上海。然後再議推廣。普及各省府州縣。
- ③⑪ 同前
二十七西文教習。擬先聘江西康女士愛德。湖北石女士美玉。其華文教習及提調等。以次訪聘。
- ③⑫ このことについては、Archibald Little夫人の前掲書ならびに褚季能氏の前掲論文に詳しい。
- ③⑬ 「女学堂章程」 3190頁
二十八凡内外董事。皆須由同人公舉依西國舉議員之例。以投匭爲法。
- ③⑭ 同前
二十九所有捐款。暫由不繼足會。將樂助諸芳名。刊列時務報末。
- ③⑮ 同前 3191頁
三十此係試辦草創章程。取具大意至其堂中詳細功課及辦事章程等。俟開辦後更由教習提調暨内外董事諸君。妥立細章。
- ③⑯ 同前 3191頁
三十一堂宇落成後。除供奉 至聖先師神位外。另開一院。裝設俞座。爲女先董祠。……
- ③⑰ この表は、「女学堂章程」附記、褚季能氏の前掲論文等によって作成した。
- ③⑱ 褚季能前掲論文 130頁
- ③⑲ この点に触れているのは、ソウル大学の関斗基教授の前掲論文であり、特にその第二章で、経元善、鄭觀応等を中心とする上海商人グループと康有為、梁啓超の改革派との連繋関係について考察され、女学堂のみならず不繼足会にも上海商人グループの影響があると述べておられる。
- ④⑩ 寄附者は、本来ならば、参加者の表に加えるべきであるが、これは、すべて婦人であり、当時の限界から女子が独立の人格としてあつかわれず、夫或いは子供の関係者として取り上げており、名前も充分に載せられていないので、関係者を中心として考察するため、この表を作成した。
- ④⑪ この表では、光禄について中間を取って従六品、光禄寺署正に比定した。また、大使を従六品としたが、それは、史料に只大使とだけ出ていたので、各グレードの大使の中間的な品秩を採用した。また、管帶虎威兵は、清朝時代の官名に比定できなかったのも、そのまま載せた。
- ④⑫ 出身地として漂陽という地名が見られたが、省名を確定することができなかったのも、この表からは、はずした。

第二章 第四節 第一項

- ① 梁啓超は、蒙学会とも云っているが、ここでは、蒙学会に統一した。
- ② 汪康年、梁啓超主編『時務報』（五）第四二冊 附1頁
中国史学会主編『戊戌变法』（四）458頁
蒙養者、天下人才之根柢也、根本不正、萌芽奚遂？……某等痛憤時難、恐善良種子播棄蕭落、受人蹂

蒙養者、天下人才之根柢也、根本不正、萌芽奚遂？……某等痛憤時難、恐善良種子播棄蕪落、受人蹂躪、用是仰體聖心、立為蒙學公會、務欲童幼男女、均沾教化為主。

- ③ 汪康年、梁啟超主編 前掲書 第四二冊 附3頁

中国史学会主編前掲書(四) 542頁

- ④ 汪康年、梁啟超主編 前掲書 第四二冊 附1-附3頁

中国史学会主編『戊戌变法』(四) 458-459頁、541-542頁

- ⑤ 梁啟超『戊戌政變記』 293頁

中国史学会主編『戊戌变法』(四) 395頁

- ⑥ 汪康年、梁啟超主編 前掲書 第四二冊 附1頁

中国史学会主編『戊戌变法』(四) 458頁

立會本旨分四大宗：一曰會、連天下心志、使歸於羣、相與宣明聖教、開通錮蔽也。一曰報、立法廣說新天下之耳目、而為蒙養之表範也。一曰書、為圖器歌謠論說、便童蒙之誦習而潛其神智也。一曰學、端師範、正蒙養、造成才、必兼賅而備具也。今本會同志、因時習極弊亟欲弘化而利用、故公議先以書報為起點、而以會學為歸宿焉。

- ⑦ 學習の要領をまとめて、口ずさむようにした文句。

- ⑧ 汪康年、梁啟超主編 前掲書 第四二冊 附1頁

中国史学会主編『戊戌变法』(四) 459頁

本會志在集益、凡同志與會、務求於本會所立各章及書報論說歌訣各種義例、或專擬章程、賜教不逮；或糾正錯誤、函示精詳者、均當謹錄報尾、編為博議、以資法則。

- ⑨ 汪康年、梁啟超 前掲書 第四二冊には、蒙學會報と見えており、中国史学会主編前掲書(四)には蒙學會報とあるが、ここでは、湯志鈞、王爾敏氏の所説に従った。

- ⑩ 汪康年、梁啟超主編 前掲書 第四二冊 附1頁

中国史学会主編『戊戌变法』(四) 458頁

本會期始先弁書報、後立學堂、報則由同志集整款項、開館認印、……

- ⑪ 汪康年、梁啟超主編 前掲書 第四二冊 附2頁

中国史学会主編『戊戌变法』(四) 541頁

一、本報分兩大綱、一為母儀訓育之法、一為師教通便之法。……

- ⑫ 同前

一、本報以啓蒙為主、而婦學、師教為正蒙之原。今中国婦學不講、師學不善、故專取淺明通便之法、以圖說歌訣為第一之要義。……

- ⑬ 汪康年、梁啟超主編 前掲書 第四二冊 附1頁

中国史学会主編『戊戌变法』(四) 458頁

書則輯識兼資、其有海內通人著作、圖器書論、極便蒙學者、務求函示本會、或全付刊印、或甄錄報端、以裨教益。

- ⑭ 汪康年、梁啟超主編 前掲書第四二冊 附1頁

中国史学会主編『戊戌变法』(四) 459頁

本會……將來立學擬分二館：一日童蒙師範學、一日幼童養育學、再加擴充、擬設中等專門之學。庶成才日多、上之可備國用、下之不失本業、心期之副、力薄為難、集腋之功、當資衆舉。

- ⑮ 汪康年、梁啓超主編 前掲書 第42冊 附1頁
中国史学会主編『戊戌变法』（四）458頁
凡与会者乞賜示姓名、里址、按期錄登報後、目曰会友題名錄。
- ⑯ 汪康年、梁啓超主編 前掲書 第42冊 附1頁
中国史学会主編『戊戌变法』（四）459頁
与会同志分為三端；一為議事之会友、凡定章編書之事属焉；一為捐助之会友、凡集貲墊款、購贈書器之事属焉；一為兼議事与捐助之会友、凡書章与集墊聽自折而任焉。
- ⑰ 同前
屆期開弁如集資不充、再由同志訂章広募、……皆以集墊資本論、以余款按期画還。
- ⑱ 中国史学会主編 『戊戌变法』（四）203-204頁
湯志鈞『戊戌变法人物伝稿』90-93頁

第二章 第四節 第二項

- ① 『蒙學報』に触れた主な史料、論文に以下のものがある。
湯志鈞『戊戌变法史論叢』
湯志鈞『戊戌变法人物伝稿』下
湯志鈞『戊戌变法史』
本論文第1章第3節
- ② 中国史学会主編 『戊戌变法』（四）540頁
蓋以悅童子、以導愚氓、未有善於是者也。……故教小学教愚民、実為今日救中国第一義。
- ③ 同前
本会學報之設、專為蒙養說法、……
- ④ 同前
本報分兩大綱、一為母儀訓育之法、一為師教通便之法。
- ⑤ 本報以啓蒙為主、而婦學、師教為正蒙之原。今中国婦學不講、師學不善、故專取淺明通便之法、以因說歌訣為第一要義。……其因說問答、用白話、歌訣論略用文理、……
- ⑥ 同前
本報所撰論說、均淺易平實、……
- ⑦ たとえば、『蒙學報』 第九冊表紙、光緒二四年初一日
- ⑧ たとえば、同前 目次一葉
- ⑨ たとえば、同前
- ⑩ たとえば、中国史学会主編 前掲書 539頁
- ⑪ 同前 540頁
- ⑫ たとえば、『蒙學報告』 第九冊表紙
- ⑬ 中国史学会主編 『戊戌变法』 542頁
- ⑭ 『蒙學報』 第九冊表紙
- ⑮ 同前 第一〇冊表紙

- ①⑥ 同前 第一冊表紙
- ①⑦ たとえば、同前 第九冊表紙
- ①⑧ 中国史学会主編 『戊戌变法』 542頁
- ①⑨ 同前 541頁
本報編訳東西各国書報、係采名家論著蝉聯訳輯、便他日装訂成冊、……
- ②⑩ 同前
本報所訳東西各国書報、現已致函訪購、……
- ②⑪ たとえば、『蒙学报』 一〇冊末
- ②⑫ 中国史学会主編 『戊戌变法』 (四) 542頁
本報之後附列通人及同志博議与会友之題名、再次印列本館弁事人姓氏及代派寄本報諸人姓名住址。
- ②⑬ 同前
本報之後亦列告白、在本館則為銀錢賬目寄發報章函件事略及更正各例、其外如有通人創制書器圖論、欲由本館広售取便蒙養者、亦可函示列入告白、余概不登。
- ②⑭ たとえば、『蒙学报』 第九冊末
- ②⑮ 同前
- ②⑯ たとえば、同前目次
- ②⑰ 同前 九、一〇、一一冊
- ②⑱ 同前
- ②⑲ 同前
- ③① 同前
- ③② 同前
- ③③ 同前
- ③④ 同前
- ③⑤ 同前
- ③⑥ 同前 第九冊、中史略論第九葉
- ③⑦ 同前 第一〇冊、通史演義叙例一葉
- ③⑧ 同前 第一〇冊、古代史演義一葉、一一冊二葉
- ③⑨ 同前 第九、一〇、一一冊
- ④① 同前 第九冊、亞州山勢簡明説略一葉
- ④② 同前 第九、一〇、一一冊各末
- ④③ 中国史学会『戊戌变法』 (四) 542頁や『蒙学报』 第九、一〇、一一冊各末を参照して作成した。
- ④④ 湯志鈞氏の『戊戌变法史』 244頁によれば、中国で現存しているのは、一期三八冊である。

第二章 第五節 第一項

- ① 今までに、浙江杭州蚕学館に触れた資料、論文は、簡見の限り、以下の通りである。

羅振玉主編『農学报』農学報館 光緒23年

中國史學會主編『戊戌變法』四

村田忠三郎將來「大清國浙江杭州蠶學館學生姓名表」「氣象觀測表」

本論文 第一章第三節參照

② 本論文 第二章

② 『農學報』 第一冊 七葉

……甬波稅務司康發達。慨中國蠶業日壞。倩人從學泰西。講求利弊。盡得其法。乃格于時議。學成而無所用。識者惜之。現杭州林迪臣太守。擬辦蠶務學堂。教授新法。此舉若成。將來蠶事必盛。收回利權不小也。

③ 同前 第四一冊 二—三葉

杭州府林迪臣太守自光緒二十二年春蒞任以來。放求蠶絲業之衰旺。因浙江民間養蠶歲比不登。遂取康發達蠶務條陳設局整頓之意。於二十三年夏稟請大憲。允欵試弁。大旨以除微粒子病。製造佳種。精求飼育。傳授學生。推廣民間為第一義。又以外洋蠶業之盛法。創其始。日集其成。故專延日本教習。教授新法。惟蠶具參用中法。日三國所製。

④ 同前 第二一冊 三葉

蠶學館之設。以考驗蠶種。分方做子為第一要義。

⑤ 同前 第一〇冊 二葉

乞即籌款開辦。計一面寄洋購器。一面擇地開局。往返輾轉。於明歲新蠶。方能及事。今將中國日本蠶絲增減數目各表。併開設學堂大畧章程。另摺呈覽。仰祈察核。俯賜批示遵辦。實為公便。

⑥ 同前 第十一冊 三葉

杭州擬辦蠶學堂。目下規撫畧定。現聘請甬波江君生金為教習。江君曾學看蠶病法於巴斯徒。又曾徧歷法意日本。凡察種飼育繅絲各術。皆極精究。刻已應聘至杭。

⑦ 同前 第十二冊 三葉

杭垣擬建蠶務學堂。準於明春開辦。現擬建造屋宇。已於湖上購地。鳩工估費。林迪臣太守特命邵伯蘋茂才董其役云。

⑧ 同前 第四一冊 二—三葉

在杭州西湖金沙港舊為閔帝祠址今改建焉。

⑨ 同前

屋基佔地十畝。前攷種棲飼蠶所一座。上下計一十四間。繭室一座。計五間。均仿東西洋蠶房式。後攷種棲公解一座。上下計二十間。東西齋舍三十間。儲葉處三間。膳室庖舍門房。其十二間。均仿華屋式。補建閔帝祠屋六間。

⑩ 同前 第二九冊 二葉

杭州蠶學館。已於上月十三日開學。

⑪ 同前 第四一冊 二—三葉

⑫ 同前 第一〇冊 二—三葉

一、學堂以省垣為主。學生學成後。即分帶儀器。派往各縣。並嘉湖各府。勸立養蠶公會。以為推廣。
一、教習或兩人。或先請一人。必精於蠶學。在外国養蠶公院。給有憑據者。方能充選。此最緊要。
為全局之關鍵。

⑬ 同前 第4冊 三葉

一、學生年在二十內外。要聰明靜細。並已通文義者。招考時。先錄取三十名。或五十名。存記挨班到

堂學習。學成派出。所遺名額。隨時遞補。

一、學生課程。須由教習手定。大概一習用顯微鏡之法。二蠶之安那多米。三蠶之費音昔訛樂際。四訪求百撒靈之病。五蠶病原由。及防止蠶病法。六養蠶之理如何合宜法。

⑭ 同前 第四一冊 二—三葉

⑮ 同前 第一〇冊 三葉

一、廣購六百倍顯微鏡。酌量經費。愈多愈好。並購一切儀器及考試驗各藥水。

一、先行繙譯日本蠶書圖說。成書後要廣印傳播。

一、中國圖學久廢。宜仿外國所繪種種蠶病。刊印成書。以資考驗。外國最重圖學各學堂各廠局。往往專立繪事院。今經費未充。只能畧為變通。但必須購用洋紙。以洋法仿畫仿印。方能絲毫描出。

⑯ 同前

一、中國養蠶。有未及吐絲而病僵。或未僵而傾棄者。貧民虧折工本。至於破家。此由病蠶者半。由天氣暴寒暴熱炭火過度者亦半。今不能如外國之造燭房。亦宜以寒暑表為準。日本此表。價值不過百文。當由局採買。聽民間零星來購。

一、廣購外國蠶子紙。考驗選種配種之法。

一、頒給論帖。准學生造賣蠶子紙。並禁妄造蠶子紙。固為各國成法。中國似須察看地方情形。不能拘泥。但使風氣大開。果有效驗。如某某數家同養若干蠶。採若干桑。向日只出絲若干。今能多出若干。成本愈輕。養蠶愈衆。人人將爭講新法矣。

⑰ 同前 一〇冊 四葉

一、學堂初創。修造房屋。購買外國儀器。用款頗為浩繁。其餘按月出款。以教習學生為最。其次則伙食工役。人夫薪水、其次則譯書刻書印書繪圖衍說。其次則購買各國蠶子紙。並各藥水。其次則各鄉各鎮派往學生。酌給費用。今請款三萬六千兩。開局須先支六千兩。以後三年。每年各一萬兩。外國養蠶學堂。所費不貲。中國帑項艱難。自不能不竭力撙節。勿得以公家之錢。分毫虛擲。喪盡天良。除學堂中酌要必需之款。與關係要用之人。必不能裁節外。其餘一切經費。須磨懇懇節節。總其事者。當躬自稽核。不稍避勞避怨。茲先開除辦法大畧。所有詳細章程。容開辦後。隨時酌定詳報。

⑱ 同前 二一冊 三葉

蠶學館之設。以考驗蠶種。分方做子為第一要義。驗有成效。館中製成蠶子紙。售與內地養蠶家。其他飼蠶種桑等法。亦詳細講求。大旨取康發達成法。參以中法以採蠶病。康氏書已分刊農學報內。

⑲ 同前

一、本館先在杭州西湖金沙港建屋購器。試辦三年。俟有成效。再行推廣辦理。

⑳ 同前

一、生生定額三十名。無論舉貢生童。有家世業蠶。文理通順年二十左右。明敏篤靜者。准其投考。文字雖佳。仍須面問養蠶成法。以定去留。惟短視人於顯微鏡不宜。

一、本館定於光緒二十四年開印日起。二月初十日止。由該生親赴本館。開具三代年貌籍貫。取具紳士省城外郡皆自請當地紳士不無限二月十一日一律到杭。候示期考試。切實保結。定達官凡貢舉有聲望者俱可出結。

一、在館諸生。必遵館中所定課程規條。盡心學習。另有詳細條目。報名時來館取閱。三年內。或留館。或派往鄉鎮。須聽館中調度。不得任意告退。違者著保人追繳館費。期滿後。學生有應得利益。如製賣蠶子紙之類。由本館察看給憑給戳為據。

一、學生按月仍給例假四日。惟蠶事既興。日有日班。夜有夜班。假期隨時酌定。若無故不到班。並請

假違例者。按日扣除月費。館中列一請假月日表。即以所扣之款爲勸奮者獎。此外非疾病大故。不得請假。均載在另定條目內。

一、館中每。一房間。住學生兩名。每名備有一牀一案兩橙。此外來往盤費。鋪葢燈油。一切應用之物。由各生自備。館中供給各生伙食外。按月給雜費洋三元。

②① 同前 第二六冊 二葉

杭州蠶學館。現由日本駐杭領事速水君。代聘農學士。至杭教習。並譯人以爲傳話之用。現考取各生。頗有已明習蠶事者。將來成效。可預卜也。

②② 同前 第四〇冊 二葉

杭州蠶學館。開辦以來。試養春蠶。爲江君生金主任。昨該館將飼育成績寄示。節錄如左。

館中所飼育之種。爲意大利、法蘭西、日本。中國之新昌奉化餘杭等處。各種皆佳。惟餘杭種含微粒子毒最多。

自三月二十六收蟻。日本種最先孵化。中國次之。意法最後。至閏月二十四日始上簇。四月初三日採繭六百八十斤。館中蠶事。較民間先十日。

各處之繭。中國種以新昌奉化爲最。餘杭次之、日本種以銀白小石丸改良又昔爲最。松白黃金生錦室次之。意法種繭大而厚。過於中日之種。

館中選佳繭製種。計春蠶種千餘紙。民間預來訂購者。已五百餘紙。

②③ 同前 第十二冊 三葉 第四一冊 二～三葉

②④ 同前 第二六冊 二葉

②⑤ 同前 第四一冊 三葉

②⑥ 同前 第六五冊 一葉

杭州蠶學館開辦以後。成績頗著。現因學生功課日增。故添聘日本前島次郎君爲副教習。由杭州日本領事官。代爲聘請云。

②⑦ 東亞同文會編『対支回顧録』下卷（原書房 1968年複刻）によれば、村田氏は、光緒二五年當時、浙江杭州蚕学館に滞在し、教育に当たらしい。

第二章 第六節

① 汪康年、梁啓超等主編 前掲書三一冊 26頁。中国史学会主編 『戊戌变法』（四）438頁

昔京師士夫開強學會書局、人才萃焉。事既上聞、聖上嘉悅、升爲官局、領以大臣、歲撥巨帑、可謂盛舉矣。今桂之士夫、追同善證人志學之肇緒、發先正涑水陽明念菴之餘風、大陳圖書、廣開學會、康幾傳孔門大教、……

② 汪康年、梁啓超等編 前掲書 三十冊 8頁。中国史学会主編 前掲書（四）439頁

宋明儒者、每講一學、皆合大會、今泰西亦然、會中無書不備、無器不儲、即僻居散處、亦得購書閱報、以廣觀摩、故士有才業、而教日以昌、國藉聖教、而勢日以盛。今本堂創設此會、略仿古者學校之規、及各家專門之法、以擴見聞而開風氣、上以廣先聖孔子之教、中以成國家有用之才、下以開愚氓蚩陋之習、庶幾不失廣仁之義云爾。

③ 知新報第十八冊光緒23年4月16日。中国史学会主編 前掲書（四）379頁。同様の記事は、康有為前掲書38頁にも見られる。

廣西近日風氣大開、皆由該省大吏士紳、踴躍提倡、故一切善舉、次第興辦。現大吏既於經古書院添設算學時務之課、近又於省中廣仁善堂、開設聖學會……皆以尊孔教救中國為宗旨……定於三月七日開會、屆期自臬道以下、首府首縣、及各候補人員闔城士紳、皆集會場、崇祀孔子、鼓樂行禮、極一時之盛、可為中國第一美舉。……

- ④ 王爾敏著の『晚清政治思想論』（台北學生書局、1969年）の141頁によれば、聖学会設立の目的を孔教を尊んで中国を救うとしており、機能としては、1、利発広仁報、2、逢庚子拜教（仿西方礼拝之制）、3、擬翻訳西書、4、擬広購圖書儀器、5、擬広設義塾、6、講求農工商学が挙げられ、最後に桂中の官紳は巡撫より以下均しく捐款有りとなる。
- ⑤ 汪康年、梁啓超等主編 前掲書 三〇冊9頁 中国史学会主編 前掲書（四）439頁
本善堂於壬辰年、立有庚子拜經之會、……夫中國義理學術大道、皆出於孔子、凡有血氣、莫不尊親、外國自尊其教、考其教規、每七日一行禮拜、……今宜大復厥規。每逢庚子日大會、……庶以維持聖教。正人心而絕未萌。
- ⑥ 汪康年、梁啓超等編 前掲書 三〇冊9頁 中国史学会主編 前掲書（四）440頁
……惟善堂地處要衝、易於走集、廣購圖書、便於會講。……今擬合中國圖書陸續購鈔、而先搜其經世有用者、西人政學、及各種藝術圖書皆旁搜購採、以廣考鏡而備研求。……今並購天球、地球、視遠、顯微鏡。測量藝術各新器、皆博攬、兼收、以為益智集思之助。
- ⑦ 同前
……桂林僻遠、尚無報館、何以開耳目而增識見！……
- ⑧ ③に同じ。
……又會中擬先開報館、名曰廣仁報、兩日一次、唐中丞為之叙其緣起、已於前日中旬出報矣。
- ⑨ 汪康年、梁啓超等編 前掲書三〇冊9-10頁 中国史学会主編 前掲書（四）441頁
……桂林城郭、寒商滋多、冠冕之歲。多有英才、以無力從師、因而廢學、不可勝道。茲設大義塾、特聘通人掌教、以育冠冕之士、課以經學為本、講求義理經濟、旁及詞章、與泰西各學、日有課程、月有考校、歲有甄別、其有高才特出之士、亦可酌資膏火、特加優恤、……」
- ⑩ 汪康年、梁啓超等編 前掲書 三〇冊10頁 中国史学会主編 前掲書（四）441頁
……泰西之富。不在治砲械軍兵、而在務士農工商、農工商之業、皆有專書千百種、自小學讀本、幼學階梯、高等學校皆分科致教之、又皆有會、以講格致新學新器、俾業農工商者考求、故其操農工商業者、皆知植物之理、通製造之法、解萬國萬貨之源、……今繙譯其書、立學講求、以開民智。
- ⑪ 同前
右五条、先在桂林開辦。本善堂于廣州、梧州、皆有分局、當陸續辦理、視集款多寡、次第推行于各府州縣。……如創講堂以傳孔教、立學堂以育人才、派游歷以查地輿風俗礦務、設養貧院、以收乞丐、教工芸、視何處籌款多者、即在其地舉行、惟望仁人志士、合力為之。
- ⑫ 汪康年、梁啓超 前掲書 第三一冊5頁
- ⑬ 同前 5-6頁
- ⑭ 同前 6頁
- ⑮ 康有為 前掲書38頁。中国史学会主編 前掲書（四）136頁。同様の記事は、前述の③の省略部分にも見られる。

……与唐薇脚、岑雲階議開聖學會、史淳之撥善後局萬金、游子岱布政捐千金、……

⑩ 汪康年、梁啟超等編 第31冊 6～7頁

⑪ 同前 7頁

⑫ 同前

⑬ 沃丘仲子『近代名人小伝』265頁、広文書局 1980年

⑭ 趙爾巽等撰 前掲書 卷443

⑮ 同前 卷447

⑯ 『清史列伝』卷63

第三章 第二節 第一項

① 李圭『鴉片事略』上・下 海寧署刊行 光緒二十一年 學生書局 1973年

② 同前 序言 2頁

鴉片為使中国幾淪於亡國滅種的最大因素、遠非洪水猛獸的禍害所可比擬、這已是一般所洞見的事實、可勿庸贅言了。

③ 天津日日新聞社編著『鴉片煙』天津日日新聞社 清末刊行（東洋文庫藏）

④ 陳忠倚『皇朝經世文三編』（光緒二十四年刊行 國風出版社再版）の卷六十刊政三禁烟には、「禁烟」と題する鄭親応の論文、「論鴉片」と題する彭玉麟の論文、「記泰西烟酒稅」と題する鄭親応の論文が1頁から7頁までに載せられている。

⑤ 徐勳「戒鴉片煙會序」（知新報五十一冊）、王覺任「澳門鴉片戒烟分会序」（同前）。なお、湯志鈞氏は、その著『戊戌變法人物伝稿』379頁、382頁において、徐勳と王覺任とを逆にしておられるが、ここでは中国史学会主編 前掲書（四）の461-463頁に従い、徐勳を五十一冊、前記題名にした。

⑥ 潘飛声「戒鴉片煙會序」（『湘報文編』所収 上海広智局 光緒二十八年）

⑦ 山雅谷「吸鴉片則不能有為論」（『万国公報』九六卷所収 8頁 華文書局 民国57年）

山雅谷は、原名はJ.Sadlerであり、宣教師である。

⑧ 陳忠倚 前掲書 卷六〇 1頁

煙之為害深矣禁烟之議亦夥矣始也操之過急繼又失之過寬遂使痼疾纏綿充塞宇宙敗壞不可收拾以至於今日也

⑨ 麦仲華輯『皇朝經世文新編』卷一七

⑩ 王爾敏 前掲書 162-163頁

また、同前142頁には、光緒二十四年上海に設立された上海戒烟會の名が見える。

⑪ 中国史学会主編 『戊戌變法』（四） 462-463頁

今特創斯會、厥流風、踵日本之良法、鑒突、越之覆轍、稟定齏食妖之戒、……庶幾与八股纏足之事、同並絶於天壤、而身家國教強敵之患、或可少息、即維新之象、富強之本、亦基於此矣。

⑫ 同前 463頁

一、吸烟之害、人所共和、但習俗既久、無友朋規勸之助、故積弊難除、今特設此會、使互相戒勉、以清斯害。

⑬ 同前 464頁

一、本会以寓日本横浜中国大同学校為總會、廣東省城興隆大街公善堂、雙門底下街知新書局、香港華字報潘主筆房、澳門大井頭知新報、上海大馬路泥城橋大同誼書局、廣西省城聖學會等處作分會。……

⑭ 同前 463—464頁

一、入會者、書其名姓籍貫居寓仕履、以備刊登會籍之用。

一、凡入會者、不得吸烟、如入會後、倘有犯例者、同人查出確有實據、即函告本會、將該名字扣除、永遠不齒、且刊登報章、以示鳴鼓而攻之意。

一、凡入會者、如有自主全權、則凡家內店內、不得置備吸鴉片烟器具、違者以犯例論、其子弟及其家人等、亦必嚴束、不得吸烟。

一、既入會後、必廣勸親戚朋友、勿蹈澆習、以自強其種。

一、從前吸烟既上癮者、不必入會、俟戒烟後、方可報名入會。

一、……如欲入會、……乞往分會處報名入會、……。

一、凡入會之人、雅意書……、請就近交其地之董事、由董事或按節按月匯寄本會。

⑮ 同前

一、本會俟開會後、博採戒烟良方、及戒烟歌、戒烟文、都輯成書、遍送海內、以資取法、如有家傳秘方、為外人所無者、尤望函賜本會、以便代為印送。

一、本會將來所派送戒烟良方各書、仍恐不能廣為傳播、更在報章登刊告白、使眾周知。

⑯ 同前 464頁

一、本會例不強捐、使人人易從、以廣聲氣、如有樂於助捐者聽、並將所得捐款、隨時登報、以誌盛意。

一、本會所得捐款、除支銷外、款暫存總會中、為異日創辦善舉之用、如商會商報等事。

一、凡入會之人、……捐者、請就近交其地之董事、由董事或按節按月匯寄本會。

一、本會每年集款若干、開銷若干、皆列清單登列報章、以昭大信。

⑰ 同前 463—464頁

一、前出

一、本會所發出各草籍、俟歲終將草籍繳還總會、排定名次、設立總冊。

一、本會草籍、以百人為一冊、……

⑱ 同前 464頁

一、……或作董事者、乞往分會處報名入會、或另取草籍以廣招徠亦可。

一、……凡有在本會領出草籍、勸人入會、滿一冊者、即推董事、滿十冊者、則設為小分會。

一、總會設司事六人、分會設司事四人、以主持會中各事、皆以同志領之、不受薪水。

⑲ 湯志勳鈞『戊戌變法人物傳稿』上冊 87頁

徐勳、字君勉、廣東三水縣人、邑庠生、康有為之弟子也。

光緒丁酉、戊戌間、任澳門《知新報》撰述、除於《知新報》宣伝變法外、又迭為上海《時務報》撰文、其最著者為《中國除害議》、……坪擊科學制度、封建統治階級見而憤之、……

二十四年戊戌、任日本横浜大同學校長。

⑳ 王爾敏 前揭書 162—163頁

清季各地所成立之戒烟會甚多、已見之於記載者、尚有桂林、廣州、香港、澳門、杭州、嘉興、長洲、太原、豐鎮、興寧、瑞州、廣豐、武寧、鉄嶺、磐石等處。固已相當繁夥。而於光緒三十年以後、各

地官立之戒烟局多名戒烟会、亦有許多戒烟会嗣即改為戒烟局所、後來這類局所幾乎遍地皆設。不勝羅列、……

② 同前 146頁

なお、清末のアヘンの問題については目黒克彦氏による『中国近代における輸入アヘンに対する税厘併徴問題の基礎的研究』（平成7年度科学研究補助金〈一般研究C〉研究成果報告書 平成8年3月）などの一連の研究がある。

第三章 第三節 第一項

① Timothy Richard, op. cit., pp. 226-228.

② Archibald Little "Intimate China," London, 1899.

秀耀春「纏足論衍義」万国公報四 19頁 光緒十五年

閔秀「纏足兩說」万国公報七一 14頁 光緒二十一年

③ 梁啓超「戒不纏足会叙」（梁啓超『飲冰室文集』所収 48-49頁）

汪康年、梁啓超主編『時務報』一六

中国史学会主編『戊戌变法』（四）431-433頁

張之洞「不纏足会章程叙」（『皇朝經世文新編』卷一七所収 7-8頁 国風出版社 1965年）

羅惇融「順德戒纏足会叙」（同前）

陳啓儼「南海九十六鄉不纏足会叙」（同前 8頁）

菊池貴晴「不纏足運動について——変法の背景としての——」『歴史教育』五—一二 1957年5月

小野和子 前掲論文

④ 康同璧 前掲論文

⑤ 菊池貴晴 前掲論文

⑥ 小野和子 前掲論文

⑦ 康有為前掲書 13頁

⑧ 梁啓超「試弁不纏足会簡明章程」（『時務報』二五 光緒二十三年四月初一日）

中国史学会主編 前掲書（四）433頁

一、此会之設、原為纏足之風、本非人情所樂、徒以習俗既久、苟不如此、即難以挾昏、故特創此会、使会中同志、可以互通昏嫗、無所顧忌、庶幾流風漸広、革此澆風。

⑨ 楊復礼「梁啓超年譜」（中国史学会主編 前掲書（四）所収 173頁）

六月与汪穉卿、麦孟華等創弁不纏足会於滬、該会由時務報發起、後移交大同訳書局、由康幼博經理之。

⑩ 梁啓超『戊戌政変記』 295頁

⑪ 麦仲華輯『皇朝經世文新編』卷一七 7-8頁

⑫ 菊池貴晴 前掲論文

⑬ 王爾敏 前掲書

⑭ 梁啓超「試弁不纏足会簡明章程」（中国史学会主編 前掲書（四）433-434頁所収）

二、凡入会人所生女子、不得纏足。

三、凡入会人所生男子、不得娶纏足之女。

此指入會後所生男子而言、若會前年已長大、無不纏足之
女可娶、或入會人尚少、摺配不易相當、則不在此例。

四、凡入會人所生女子、其已經纏足者、如在八才以下、須一律放解。如在九才以上不能放解者、須於
會籍報明、方准其與會中人昏娶。

五、凡入會者書其姓名年歲籍貫居寓仕履及妻之姓子女之名。凡未定昏者皆報名、已定昏者無庸報名。

以備刊登會籍之用、其式另列付張。

六、凡入會後所生子女、當隨時陸續報名、以備統刊會籍。

七、凡入會報名後、由本館贈勸女學歌一本、以為入會之提。

⑮ 同前 434頁

八、凡會籍以姓分冊、百人為一冊、每年印一次、分致入會之家。

九、開會之始、由同志各持一籍勸人入會、謂之草籍、草籍不以姓名冊、歲終將草籍繳致總會、排比族
姓、刊定清冊、謂之正籍。

⑯ 同前 434—435頁

十、本會總會設於上海、暫借時務報館開弁、各省會皆設分會、各州縣市集就入會人多之處、隨時設小
分會、其所在地、陸續登報佈告。

十一、各總會分會隨地皆立主會副主會、以有功德於本會者為之、或由董事公舉、無定員、主釐訂會例、
稽查清冊。若不兼弁女學刻書等事、不受薪水。

十二、各總會分會皆設董事、無定員、主勸人入會、並商略會例、督弁會弁皆以同志領之、不受薪水。

十三、總會設司事四人、分會設司事兩人、小分會設司事一人、主收各報名單、一、排比族姓刊刷會籍、
二、將會籍分致入會之家、三、並記捐資人姓名、四、刊印每年出入清冊、五、司事酌給薪水。若入
會人多事繁冗、則隨時議增設司事。

十四、本會草籍以五十人為一冊、凡有在本會領出草籍勸人入會滿一冊者、即推為董事、滿十冊者即設
小分會。

十五、各會司事由主會董事招人而用。

⑰ 同前 435—436頁

十六、本會之設建會所、請司事印送會籍及勸女學歌事、事費頗浩繁、不能不設法扶助、然亦不宜強人
捐錢、方准入會、凡入會者、願捐則捐、不拘多少、即少至數百錢亦可、即不捐亦可。

十七、此會若推行日廣、則需費益多、入會之時、收捐甚微、仍恐不敷開銷、海內達人、好行其德、務
望慷慨見助、以贊厥成、天下幸甚。

十八、凡助資一百兩以上者公推為主會、十兩以上者公推為副主會、凡主會副主會每年皆將姓字銜彙
登報章。其助資至五百兩以上者、他日在會館中設立木主祀之、千秋俎豆、以志盛德。

十九、本會每年集資若干、皆列清單、附會籍後、分致入會之家、並登報章以昭大信。

二十、本會所收入會及捐助費、除按年開銷列清單外、如有余費、或設女學校、或設婦孺報館、或設
婦嬰醫院、或設恤嫠局、皆由臨時酌議、惟他日所有一切利益、惟會中人乃得均霑。

⑱ 譚嗣同 前揭書 211—212頁

第一條 本會所以立會之旨、原為同會之人互通婚姻、不致以不纏足之故、為世俗所棄。故會籍以姓分
冊、男女載明年歲、正以備同會摺婦相攸之用。今依此意、定為同會嫁娶章程。

第二条 凡同会皆可互通婚姻、除会外人亦係不纏足者仍通婚姻外、余不得与通婚姻。

第三条 同会雖可互通婚姻、然必須年輩相当、兩家情願方可。不得由任指一家、以同会之故、強人為婚。

第四条 同会人籍貫非一、苟平素兩家相得、而兩家中有力能遠就者、即可為婚。有志之士、必能破除不肯遠嫁之俗見。

第五条 訂婚之時、以媒妁婚書為憑、或略仿古奠雁之意、隨意備禮物數色。無論家道如何豐富、總以簡省為宜；女家不得絲毫需索聘禮。

第六条 女家置備嫁奩亦應簡省、男家尤不得以嫁奩不厚、遽存非薄之意。

第七条 婚姻之礼久矣廢絕、古礼既不適於今、能依大清通礼固亦可矣。有時不能不從俗從宜、總挾其簡便者用之。

第八条 不纏足之女、其服飾仍可用時制。惟著鞋襪与男裝同式、此節凡同会皆宜一律、不可獨為詭異、致同会驚詫、難与為婚。

第九条 凡人莫不顧其女之賢、則女學万不可不講。已即無女、亦莫不顧其婦之賢、則應出貲、随地倡立女學塾、塾之大小惟其力。以助人之女為學、安知非即助己之婦為學。蓋必女學昌明、而後婚姻之本正矣。

第十条 以上章程、但挾其易於遵行者、臚列質實、屏棄華藻、務使人人皆解。若並此而不能遵行、又復入會何為！故初入會時、即當揣量及此、自無後悔也。

⑭ 范文瀾 前掲書 305—315頁

第四章 第二節 第一項

① 第一章第二節參照

② 小野川秀美 前掲書

湯志鈞『戊戌變法史論叢』

湯志鈞『戊戌變法人物傳稿』上・下

胡浜『戊戌變法』新知識出版社 1956年

范文瀾 前掲書

王弼「強學的人物及其派別」南京大學學報 人文科學編 1957年、二期

耕農「記強學會」民主潮六卷、三期 1956年

③ 中國史學會主編 『戊戌變法』（四）132頁

文中の（ ）内は筆者の註

以士大夫不通外國政事風俗、而京師無人敢創報以開知識、變法本原、非自京師始、非自王公大臣始不可、乃与送京報人商、每日刊送千份於朝士大夫、紙墨銀二兩、自捐此款、令卓如、孺博日屬文、分學校軍政各類、日騰於朝、多送朝士、不收報費、朝士乃日間所不聞、識議一變焉。……

④ 林樂知編 『中東戰紀本末』 卷八 46—47頁

中國史學會主編 『戊戌變法』（四）386頁

⑤ 梁啟超 前掲書 288頁

⑥ 林樂知編 前掲書 卷八 46—47頁

中国史学会主編 『戊戌变法』（四） 386頁

⑦ 拙稿「中国近代政治史上におけるテイモシー・リチャードの役割」『史潮』89号 1964年

⑧ 梁啓超 前掲書 289-291頁

⑨ 林樂知編 前掲書 卷八 46-47頁

中国史学会主編 『戊戌变法』（四） 386頁

凡十余人、相与講求中外掌故、惟日孳孳。旋以強学名其会、而別設強学書局於京師、議印一切有用書籍。

⑩ Timothy Richard, op. cit., p.255

⑪ 梁啓超『飲冰室文集』十一、17頁 台湾中華書局 1960年

中国史学会主編 『戊戌变法』（四） 45頁

⑫ 中国史学会主編 『戊戌变法』（四） 177頁

⑬ 林樂知編 前掲書 卷八 46-47頁

中国史学会主編 前掲書（四） 386頁

⑭ 同前

而京師名下士、及外僚之入覲者、如王爵棠方伯之春、程從周軍門文炳、龍觀臣軍門殿揚諸公、管裾盛會、無慮百數。南皮尚書特撥五千金、……寿州孫受臣司空家勳代備館舍……常熟翁叔平司農同餼、許從戶部歲撥若干金、並撥發印書機器、……

⑮ 中国史学会 前掲書（四） 134頁 文中（ ）内は筆者の註

⑯ 同前

⑰ 同前

⑱ 梁啓超『飲冰室文集』二十九 1-2頁

而最初著手之事業、則欲弁圖書館与報館、袁公首捐金五百、加以各處募集、得千余金、遂在後孫公園設立会所、向上海購得訳書數十種、而以弁報事、委諸鄙人。當時固無自購機器之力、且都中亦從不聞有此物、乃向售京報處託用粗木版雕印、日出一張、名曰『中外公報』、只有論說一篇、別無記事。鄙人則日日執筆為一數百字之短文、……乃託售京報人隨宮門鈔分送諸官宅、……弁理月余、居然每日發出三千張内外、……

⑲ 梁啓超『戊戌政變記』 288頁

乃倡設強学会於北京、京朝士大夫集者數十人、……每十日一集、集則有所演說、時張之洞……而善之、寄五千金……。

⑳ 同前 289頁

㉑ Timothy Richard op. cit., pp254-255.

Knowing that the monthly magazine of the Diffusion Society had been incirculation for many years amongst the leading officials without any opposition, they called their first paper by same name as ours, Wang Kwoh Kung Pao, and it first consisted mainly of reprints from our magazine. The only difference was that our paper was printed in metallic type in shanghai, whilst theirs was printed from the wooden type used in publication of the Government Peking Gazette, Thus in outward appearance

it resembled the Government official organ, whilst in content it was introducing Western ideas propagated by the S. D. K.

- ② Ibid., to face p254.
- ③ Ibid., p255.
- ④ 梁啓超『飲冰室文集』二十九 2頁。
- ⑤ 范文瀾『中國近代史』上、王枏 前掲論文、湯志鈞『戊戌變法人物伝稿』上、下他
- ⑥ 第1章第2節参照
- ⑦ 王枏氏は、北京強学会参加者として29名をあげておられ、湯志鈞氏もそれに同意しておられるが、筆者としては、王枏氏が附録として述べられておられる翁斌孫、曾広鈞、洪良品、王之春、龍殿揚、程文炳及び小野川秀美前掲書181頁で述べられておられる江標を追加して検討した。
- ⑧ 林樂知編 前掲書 卷八 46-47頁
中国史学会主編 前掲書(四) 386頁
梁啓超『戊戌政変記』 288頁
- ⑨ Timothy Richard, op. cit., p.255.
- ⑩ 梁啓超『飲冰室文集』十一 17頁
中国史学会主編 『戊戌変法』(四) 45頁
梁啓超『戊戌政変記』 288頁
- ⑪ 范文瀾 前掲書 299頁
- ⑫ 中国史学会主編 前掲書(四) 140頁
- ⑬ 范文瀾 前掲書 305-315頁
- ⑭ 范文瀾 前掲書 305-315頁
- ⑮ 梁啓超『戊戌政変記』 291-292頁 ()内、筆者の註
康有為撰此開会主義書、痛陳亡国以後慘酷之状、以激厲人心、読之者多為之下涙、故熱血震盪、民氣漸伸、而守旧之徒惡之、御史楊崇伊上奏劾其私立会党、……僅開四月……至乙未十一月遂被禁止。
- ⑯ 林樂知編 前掲書 卷八 46-47頁
中国史学会主編 前掲書(四) 387頁
- ⑰ 梁啓超『戊戌政変記』 238頁
中国史学会主編 前掲書(四) 64頁
()内、筆者の註
会中志士憤激連署争之。
- ⑱ 梁啓超『戊戌政変記』 292頁
中国史学会主編 『戊戌変法』(四) 395頁
強学会雖封禁、然自此以往、風氣漸開、已有不可抑压之勢。……
- ⑲ 林樂知編 前掲書 卷八 46-47頁
中国史学会主編 『戊戌変法』(四) 387頁
()内は筆者の註
丙申正月、孫燮臣司空……、挙強学会有利無弊之説、造膝密陳、皇上從諫如流、俯允説立官書局、而

仿同文館成例、隸諸總理衙門。當經總署王大臣、請旨派員管理、奉旨：『派孫家鼐管理、欽此。』

④⑩ 張靜廬輯註 前揭書

④⑪ 戈公振『中國報學史』 43頁

④⑫ 梁啟超『戊戌政變記』 292頁

中國史學會主編 『戊戌變法』（四） 395頁

惟已盡失開會之本旨、僅存其外觀而已

④⑬ 梁啟超『飲冰室文集』二九 39頁

中國史學會主編 『戊戌變法』（四） 255—256頁

嗣後此官書局、即改為大學校、故言及鄙人与大學校之關係、則以大學校前身為官書局、官書局之前身、為強學會、則鄙人固可為有關係之人。

第四章 第二節 第二項

① 第1章第2節參照

② 第1章第3節參照

③ 小野川秀美 前揭書

湯志鈞『戊戌變法史論叢』

耘農 前揭論文

王斌 前揭論文

內藤戊申「汪康年伝稿」

① 內藤戊申「強學會記事—汪康年伝稿之二—」

② 湯志鈞『戊戌變法人物伝稿』

王爾敏 前揭書

④ 第2章第1、2節參照

⑤ 同前

⑥ 林樂知編 前揭書 卷八 46—47頁

中國史學會主編『戊戌變法』（四） 386頁

頃士大夫創立強學會於京師、以講中國自強之學、風雨雜沓、朝士鱗萃、尚慮未能布衍於海內。於是……、如漢之汝南、唐之東都、宋之洛陽、為士大夫所走集者、今為上海、乃羣天下之圖書器物、羣天下之通人學士相與講焉。嘗考泰西所以富強之由、皆由學會講求之力。伝稱以文會友、以友輔仁。

⑦ 中國史學會主編『戊戌變法』（四） 389頁

吾中國地合歐洲、民衆倍之、可謂龐大魁巨矣、而吞割於日本、蓋散而不羣、愚而不學之過也。今者思自保、在學之羣之。昔在京師、既與諸君子開會以講中國自強之學、朝士集者百數、然猶未足合天下之才。海內菁賢通學、……欲推廣京師之會、……滬上總南北之匯、為士夫所走集、乃羣中外之圖書器芸、羣南北之通人志士、講習其間、而因推行於直省焉。

⑧ 同前 257頁

……乃退而立強學會於京師。繼設分會於上海、……

⑨ 康有為 前揭書 36頁

⑩ 梁啓超『戊戌政變記』 288頁

() 内は筆者の註

……九月康有為出京游南京。說張之洞謀設強學分會於上海。……

⑪ 中國史學會主編 『戊戌變法』(四) 389—394頁

⑫ 康有為 前掲書 36頁

⑬ 中國史學會主編 『戊戌變法』(四) 389頁

一、本會專為中國自強而立、以中國之弱、由於學之不講、教之未修、故政法不舉。今者鑑萬國強盛弱亡之故、以求中國自強之學。總會立於上海、以接京師、次及於各直省。

⑭ 同前

今日學校頹廢、士無術學、……又士皆散處、聲氣不通、講習無自、……失會友輔仁之志。西國每講一種學術、必有專會、……士有專業而才日以成、國資其用而勢日以盛。今設此會、聚天下之圖書器物、……略仿古者學校之規及各家專門之法、以廣見聞而開風氣、上以弘先聖孔子之教、下以成國家有用之才、……

⑮ 梁啓超『戊戌政變記』 288頁

() 内は筆者の註

……張大喜、會遂成、此會所弁之事為五大端、一譯東西文書籍、二刊布新報、三開大圖書館、四設博物儀器院、五建立政治學校、我國之有協會有學社自此始也。

⑯ 中國史學會主編 前掲書(四) 389—390頁

譯印圖書。……互譯者通士以廣問學。嘗攷講求西學之法、以譯書為第一義、蓋以中國人而講西文、不過通酬酢語言、只能識書札尺牘、其能說朝章國律者已少。至各學專門之書、各具深微之理、即其字義、各有專門、不盡相通、……即有一二專門之士、無以究天下之學者、其為益甚渺。欲令天下士人皆通西學、莫若譯成中文之書、俾中國百萬學人、人人能解、成才自衆、然後可給國家之用。……今此會先弁譯書、首訳各國各報、以為日報取資、次訳章程、條教、律例、條約、公法、……等書、然後及地圖暨各種學術之書、隨訳隨刊、並登日報、……以資講求而廣聞見、並設訳學堂、專任此事。

⑰ 同前 390頁

刊布報紙。陳文恭公勸士閱邸報以知時務、林文忠公常訳澳門月報、閱報以視敵情。……今之刊報專録中國時務、兼訳外洋新聞、凡於學術治術有閏切要者、巨細畢登、會中時務附焉。其邸鈔全分、各處各種中文報紙、各處新事、各人議論、並存鈔以廣學識、各局互相鈔寄。

⑱ 同前 390—391頁

開大書藏。乾隆時敕建文匯閣於揚州、建文宗閣於鎮江、例准士子就讀、經亂散失、遺書無多、此會擬宏闢區宇、廣集圖書。近年西政西學日新不已、……泰西通都大邑、必有大藏書樓、即中國圖籍、亦藏弄至多、今合中國四庫圖書、購鈔一分、而先搜其經世有用者。西人政教及各種學術圖書、皆旁搜購採、以廣考鏡而備研求、其各省書局之書、皆存局代售。

⑲ 同前 391頁

開博物院。文字明其義、有不能明者、非因譜不顯、因譜明其體、有不能明者、非器物不顯。……人之一體、誦素問、考明堂及全体新論、不知也。外國有人体全体、一見則立明矣。康熙年間欽定時憲書、採用西法、置南懷仁所造儀器於觀象台、……西國博物院凡地球上天生之物、人造之器、備列其中。……今創設此院、凡古今中外兵農工商各種新器、如新式鉄艦、輪車、水雷、火器、及各種電學、化學、光

学、重学、天学、地学、物学、医学諸図器、各種磁質、及動植類、皆為備購、博覽兼收、以為益智集思之助。

②⑩ 同前

會中於義所應為之事、莫不竭力。視集款多寡、次第举行者、又有数事：立学堂以教人才、創講堂以伝孔教、派游歷以查地輿、磁務、風俗、設養貧院以収乞丐、教工藝、視何處籌款多者、即在其地举行、惟望海内志士合力為之。

②⑪ 同前 392頁

②⑫ 同前

②⑬ 同前

②⑭ 同前

入會諸君、原為購求學問、……今為分別門類、皆以孔子經學為本。自中国史學歷代制度、各種考摭、各種詞章、各省政俗利弊、万国史學、万国公法、万国律例、万国政教理法、古今万国語言文字、天文地輿、化重光學、物理性理、生理地質、醫藥金石動植氣力、治術師範、測量書畫、文字減筆、農務牧畜、商務機器、製造宮建、輪船鐵路、電線電器製造、磁學水陸軍學、以及一技一芸、皆聽人自認。與衆講習、如有新得之學術、新得之理、告知本會、以便登報。將來設立学堂、亦分門教士、人才自盛。

②⑮ 同前

②⑯ 同前 善堂とは、當時あった慈善組織。

②⑰ 同前 393頁

②⑱ 同前

②⑲ 同前

③① 同前

開弁此會、合海內之普碩名士任之、所有局事、由開弁諸人內公舉四人為提調、二人坐弁、二人會弁、公舉諳練公正者八人為董事、亦四人坐弁、四人會弁。……

③② 同前

③③ 同前 394頁

③④ 同前

③⑤ 同前

③⑥ 同前

③⑦ 同前

③⑧ 同前

③⑨ 同前

④① 同前 185頁

……張之洞首倡捐一千五百兩為開弁費、滬上諸當道亦有捐助。……

④② 康有為 前揭書 36頁

會事大行、不能中止

④③ 戈公振 前揭書 122頁

④③ 康有為 前掲書 36頁

時金陵有楊仁山者、講仙學有道士也、曾游倫敦、得儀器甚多、吾為強學會購之、凡三千余金、其天鏡大者、能窺見火星之山海矣……

④④ 第二章第一節参照。王枋氏は、強學報の創刊号の最後に載っている16名、すなわち、黄体芳、屠仁守、康有為、梁鼎芬、黃紹箕、顧光典、張春、喬樹枏(楠)、黃紹第、汪康年、鄒代鈞、黃遵憲、左孝同、志鈞、沈瑜慶、龍澤厚を創始者と考えておられ、この点は、王爾敏氏も同様の説をとっておられる。王枋氏は、さらにその後の参加者として、3名、鄒凌瀚、陳三立、岑春煊を加え、19人を会員、張之洞、陳宝琛、顧璣、黎庶昌の4人を賛助人と考え、全部で23名をあげておられる。湯志鈞氏は、さらに章炳麟を追加しておられる。また内藤戊申氏は、湯志鈞氏の所説から康有為、章炳麟を除いて22名をあげ、さらに劉坤一、江標、王之春、譚嗣同を入れておられる。

私は、湯志鈞氏の所説を是と考えるが、清史記事本末に出ている賛成者としての沈曾熾、張孝謙、袁世凱の3人を追加した。

④⑤ 中国史学会主編 『戊戌変法』書(四) 257頁

④⑥ 范文瀾 前掲書 305-315頁

④⑦ 梁啓超『戊戌政変記』 292頁

()内は、筆者の註

御史楊崇伊上奏劾其私立会党。顯干例禁、請旨查封。……上海強学会僅月余、至乙未十一月遂被禁止。

④⑧ 中国史学会主編 『戊戌変法』(四) 185頁

……先生憤学会之停散、謀再振之、亦以報館為倡始。……

④⑨ 梁啓超『飲冰室文集』4 17頁

京師之開強学会也、上海亦踵起、京師会禁、上海会亦廢、而黃公度倡議統其餘緒、開一報館、以書見招。三月去京師、至上海、始交公度。七月時務報開、余專任撰述之役、報館生涯自茲始、

⑤⑩ この史料には見えないが、汪康年譜等によれば、汪康年は、梁啓超と共に時務報の編集者であり、同報に大きな役割を果たした。

⑤⑪ 耘農 前掲論文 18頁

()内は、筆者の註

其時西学初入中国、举国学者、莫或過問、有為僻处鄉邑、亦未之前聞。及道經香港上海、見西人殖民政治之完整、属地如此、本国之更進可知、因思其所以致此者、必有道德学問以為之本原、乃悉購江南製造局及西教会所訳各書盡読之。

⑤⑫ 第四章第三節第一項参照

⑤⑬ 第二章第二節第一項参照

⑤⑭ 第一章第二節・第四章第三節第一項参照

第四章 第二節 第三項

① 上海強学会、『強學報』については、次の史料、論文、著書を参照されたい。

『強學報』上海強學書局 第1号 光緒21年11月28日、第2号 光緒21年12月初3日、中華書局再版
1991年

耘農「記強学会」 民主潮 6-3 1956年

湯志鈞『戊戌变法史論叢』 湖北人民出版社 1957年

王栻『強学会の人物及其派別』 南京大学學報 1957年 2期 人文科學編

内藤戊申「汪康年伝稿」 東洋史研究 17-3 1958年

内藤戊申「強学会記事—汪康年伝稿之2」 東洋史研究 19-4 1961年

小野川秀美『清末政治思想研究』 東洋史研究会 1960 みみず書房 1969年

湯志鈞『戊戌变法人物伝稿上・下』 中華書局 1961 増訂本1982年

戈公振『中國報学史』 香港太平書局 1964年

王爾敏『晚清政治思想史論』 學生書局 1969年

方漢奇『中國近代報刊史上』 山西人民出版社 1981年

湯志鈞『戊戌变法史』 人民出版社 1984年

湯志鈞『康有為与戊戌变法』 中華書局 1984年

王栻『維新運動』 上海人民出版社 1986年

本論文第四章第二節第三項参照。

②『強學報』 影印説明 2頁

③ 同前 1~2頁

④ 同前 1頁

十月十七日(八月二十九日)出京、由天津至南京、遊說署理兩江總督張之洞成立上海強學會、擬定章程、説明「專為中國自強而立」。

⑤ 同前

「刊布報紙」、作為上海強學會「最要者四事之一」。

⑥ 同前

康有為「急欲辦報」、因母壽須歸廣東、特電調門人徐勳(君勉)、何樹齡(易一)來滬辦報、《強學報》就是徐勳、何樹齡主持的。

⑦ 前掲拙著 255-256頁

⑧『強學報』 一号一葉、二号一葉、上海強學會書局 現住跑馬場西首王家沙第一号。

⑨ 同前 一号六葉

今之刊報專錄中國時務兼譯外洋新聞凡干學術治術有関切要者巨細為會中事務附焉其邸鈔全分各處各種中文報紙各處新事各人議論並存鈔以広學識各局互相鈔寄。

⑩ ⑧と同じ

啟者本局現當開創之始專以發明強學之意為主派送各處不取分文一月之後乃收報費欲閱者到上海王家沙第一間掛號即得至於時事新聞因限於篇幅不及多載俟將來乃陸續錄之非敢畧也讀者諒指。

⑪ ④と同じ

《強學報》就是徐勳、何樹齡主持的。

⑫ 湯志鈞『戊戌变法史』 163頁

⑬ ④と同じ

- ⑭ 同前 一～二葉
- ⑮ 同前 二～四葉
- ⑯ 同前 四～八葉
- ⑰ 同前 二～三葉
- ⑱ 同前 三～四葉
- ⑲ 同前 四葉
- ⑳ 前揭拙著 75-107頁參照
- ㉑ 『強學報』二號一葉
- ㉒ 同前 一～二葉
- ㉓ 同前 二葉
- ㉔ 同前 二葉一三葉
- ㉕ 同前 三～四葉
- ㉖ 同前 四葉
- ㉗ 同前
- ㉘ 同前 一號二葉

古者採詩以觀民風誦詩而知國政專立太師之官以主其事蓋詩者即今之新報上自政教下而風俗無不備。

- ㉙ 同前 三葉
- ……特古者創簡繁難故出以韻語以便簡酌易傳若如漢唐之有紙筆宋後之有刻木近今之有石印自必推之彌詳不必限以韻語太師派人採詩如今之採事人也每國皆有太師古者萬國是一萬新報館也。
- ㉚ 同前
- 今外國自明末開設報館自本國人民風俗外國軍政國事及天文地理之新義軍械輪舶之新樣一日新出人人皆得知之用此風行上自國主下自兵丁婦女無不樂觀。
- ㉛ 今查外國報館美九百六十二德五百六十英一百六十九法一百二十八意大利一百零五比利時荷蘭九十四其餘歐洲各國共二百五十美洲小國亦一百十五其報館之大如英之太吾士者每日出七萬張故能下情無壅鄰敵互知識見日廣人才日多泰西富強蓋以此也。
- ㉜ 我中國邸報開設千年本遠出於西報之前特未推而廣之採詩之法又未追而復之上下丙外壅塞耳為民隱莫達人才日愚又以此也。
- ㉝ 夫泰西能用吾採詩之法以致富強吾不能推吾採詩邸報之法商致愚弱甚非計也今公卿士大夫政事所從出也而遠之不通外國之情近之不通直省之事故大之若運籌軍國既茫然而無睹立約劃界自割地而不知乃至達於章奏見於清議亦復謬陋至於官吏作弊奸欺小民蒙冤受苦耳。
- ㉞ 耳目不接如隔異國有志之士雖欲留心無所措其耳目惟賴滬報及道路之傳說而已如坐簪井離詔天地以此為政不亦難乎至於人士自八股四書而外曾無所知乃至以詞館之英以四川為近海謂日本之接安南澳門乃近星架坡如此之流不堪枚舉小民自鄴井以外顛顛無知僅類牛馬以此當地球交通強隣四逼之世安得不見侮乎夫以智治愚天之理也。
- ㉟ 古者諸侯萬國有萬報館今直省州縣皆宜令設報館以達民隱而開民智本會先開報館其體有六一紀論旨奏摺二紀京師掌故時事三紀直省民隱吏政水旱盜賊四考地理邊務五譯外國報叙外國政事地理風俗六附論說其餘商賈瑣事姑從緩及其利亦有六一士夫可通中外之故識見日廣人才日練是日廣人第二公卿耳目漸廣兵事

敵情漸熟辦事立約不至大誤是曰保疆士三變法富順人心人人以爲然則令若流水是日助變法四士夫終日從公餘則酬酢絕無暇日讀書有報則每日一張各科皆有日日增長是日增學問五更畏上聞不敢作奸是日除舞弊六小民疾苦纖悉皆知是日達民隱

④6 有此大利亟應舉行由此推廣直省郡縣則天下一家中國一人其干風化爲益大矣。

④7 同前 二號二葉

土地之小而滅亡者有矣人民之少而滅亡者有矣物產寡而滅亡者有矣兵甲之弱而滅亡者有矣乃土地之廣二萬里人民之衆四萬萬物產之繁廿六萬兵額之多百餘萬一旦境土日蹙華工被逐商務告拙將卒潰敗者何哉以爲所用非其人敗則內之廷臣外之疆吏豈無洞達中外深通古今而力求變法者豈敢謂非其人以爲所行非其道

④8 同前

敷變法三十餘年洋差學堂之設開礦公司之事兵法銃炮之用電線輪船之法我中國何嘗不踵而效之豈敢謂非其道而遂以至此者得無昧於本源不變科學故耶孟子曰徒善不足以為政徒法不能以自行荀子曰有治人無治法今國家取士之法踵有明之遺制耳推明祖之意設制藝之科蓋欲特天下之聰明材力精思異能納之一途指之愚之。

④9 同前

而於無用然後已方今世變日亟上下無才中國有非洲之儕生民有爲奴之慘嗚呼是誠何心忽為此哉或曰祖宗之法孔子之道豈可變乎不知孔孟之莊嚴忽爲割試廷裁之重典從求楷法。

⑤0 同前

以中國之大人民之衆三年之間人才輩出不可勝用矣夫泰西之縱橫萬里現視一切者豈從在甲兵之強戰艦之多已哉亦由科學變而人才多學校興而稽習變故也不然徒襲其末而棄基本事變一起朝野無人適足以假寇兵而濟盜糧耳。

⑤1 同前

なお、この史料には、トルコの土地が八十四千六百九萬方里とあるが、八十四萬四千六百九方里に訂正した。

歐洲十六國而丹小國也歲握波羅的海口而收其稅瑞士小國也能合地球之會而萃其都其故何哉亦由科學之變人才之多土耳其陸師冠於地球其地八十四萬四千六百九萬方里而科學才變遂削於俄羅斯制於英德法矣印度亞洲之六國也其地一百五十六萬零一百方里而藩屬於英國矣阿非利加洲五洲乙一也其地一千一百九十九萬里而風分於歐洲橫暨五洲熟得孰失。

⑤2 『強學報』二號二葉

科學之効深切而著明向使中國幡然改圖土風一變國是既定然後開議院立議員以通上下之情重官俸疏官階以正吏治之弊綱舉目張風行草偃餘事何足爲哉且夫中國非無一二通變之才也第是非未定風氣天開興一事則無人以輔成之建一策則多方以阻撓之雖有奇才異能良法美意亦於至壅塞抵滯不能得展而後已。

⑤3 同前

周子曰天下勢而已矣陸子靜曰一人抵當流俗不去科學不變則勢無由成區區一二人豈易爲力耶故今日惟有合大衆以行之合大衆則勢成矣。

⑤4 同前 一號八葉

⑤5 本論文、第一章第二節參照

- ④6 湯志鈞『戊戌变法史』 163頁
- ④7 王拭 前掲書 143-144頁
- ④8 范文瀾『中国近代史』上305-315頁 人民出版社 1962年
- ④9 王拭 前掲書 144頁
- ⑤0 湯志鈞『戊戌变法史』 156-158頁
- ⑤1 本論文、第四章第二節第五項參照

第四章 第二節 第四項

- ① 梁啟超『戊戌政變記』
小野川秀美 前掲書
林能士 前掲書
佐々木保子 前掲論文
鄧譚洲「十九世紀末湖南的維新運動」 歷史研究 1959-1
湯志鈞『戊戌变法史論』
湯志鈞『戊戌变法史論叢』
湯志鈞『戊戌变法人物伝稿』上・下
胡浜『戊戌变法』新知識出版社 1956年
湖南省志編集委員會 前掲書
王爾敏「南学会」大陸雜誌二三一五、六 1961年
王爾敏 前掲書
- ② 第一章第二節
- ③ 同前
林能士 前掲書 54頁
- ④ 梁啟超『戊戌政變記』 301-302頁
湖南向稱守旧、故凡洋人往游歷者動見殺害、而全省電信輪船皆不能設行、自甲午之役以後、湖南學政以新學課士、於是風氣漸開、而譚嗣同輩倡大義於下、全省沾被、議論一變、及陳宝箴為湖南巡撫、其子陳三立佐之、黃遵憲為湖南按察使、江標任滿、徐仁鈞繼之為學政、聘梁啟超為湖南時務學堂總教習、与本省紳士譚嗣同熊希齡等相応和、專以提倡実学、喚起士論、完成地方自治政体為主義、今将去年十二月梁啟超上陳宝箴一書。
- ⑤ 同前 326-336頁
- ⑥ 小野川秀美 前掲書 272頁
- ⑦ 佐々木保子 前掲論文
- ⑧ 林能士 前掲書 前言1-2頁
甲午戰後、湖南人士以其本有的自負心与責任感、承受新思潮的刺激、乃由全国的守旧中心、一變而維新的積極推動者；同時、當時也有不少維新志士不約而同地羣集於長沙、思籍湖南一隅之地、作為全国变法革新的拠点。於是、在官紳的共同倡導下、湖南省於短短二、三年間、各項新政同時並舉、蔚為戊戌变法運動期間全国最突出最進步之一省、

- ⑨ 小野川秀美氏 前掲書
王爾敏 前掲書
梁啓超『戊戌政變記』
林能士 前掲書
湯志鈞『戊戌變法史論』
湯志鈞『戊戌變法史論叢』
湯志鈞『戊戌變法人物伝稿』上、下
鄧譚洲 前掲論文
胡浜 前掲書
菊池貴晴「清末における学会の意義について—政治結社としての南学会—」
湖南省志編集委員會 前掲書
⑩ 中国史学会主編『戊戌變法』（四） 192頁
正月……創設南学会於長沙、……二月初一日、学会開講。
⑪ 梁啓超『戊戌政變記』 303頁
今日欲伸民權、必以廣民智為第一義、湖南官紳有見於民智之為重也、於是時務學堂之設、意至美矣。
⑫ 同前 307頁
欲興民權、宜先興紳權、欲興紳權、宜以学会為之起点、此誠中國未嘗有之事、而實千古不可易之理也
⑬ 同前 310頁
今中國之紳士使以弁公事、有時不如官之為愈也、何也、凡用紳士者、以其於民間情形熟悉、可以通上下之氣而已、今其無學無智、既與官等、而情偽尚不如官之周知、然則用之何為也、故欲用紳士、必先教紳士、教之惟何、惟一歸之於学会而已、先由学会紳董各舉所知品行端方、才識開敏、紳士每州縣各數人、咸集省中入南学会。
⑭ 同前 310—311頁
会中広集書籍図器、定有購期、定功課、長官時時臨蒞以鼓舞之、多延通人為之會長、發明中国危亡之故、西方強盛之由、考政治之本原、講弁事之條理、或得電報、奉有部文、非極秘密者、則交与会中俾學習議事、一切新政將舉弁者、悉交会中議其可弁与否、決議其弁法、次議其籌款之法、次議其用人之法、日日讀書、日日治事、一年之後、会中人可任為議員者過半矣、此等会友亦一年後除酌留為總會議員外、即可分別遣散歸為各州縣分会之議員、復另選新班在總會學習。
⑮ 同前 311頁
紳智既開、權限亦定、人人既知危亡之故、人人各思自保之道、合全省人之聰明才力、而處心積慮、千方百計、以求弁一省之事、除一省之害、捍一省之難、未有不能濟者也。
⑯ 同前 311—313頁
紳權固当務之急矣。然他日弁一切事、舍官莫屬也、即今日欲開民智、開紳智、而假手於官力者、尚不知凡幾也。故開官智又為万事之起点、官貧則不能望之以愛民、官愚則不能望之以治事、……故課吏堂不可不連立。
⑰ 同前 313頁
而必須撫部為之校長、司道為之副校長、其堂即設在密邇撫署之地、每日或間一二日、必便衣到堂、稽

察功課、隨時教誨、……、堂中陳設書籍張挂地圖、各官所讀之書、皆有一定、大約各國約章、各國史志、及政學公法、及政學公法、農工商兵礦政之書。

⑮ 同前 317頁

() 内は筆者の註

此書即為湖南弁事之起点、後此湖南一切事、皆依此書次第行之、而南学会尤為全省新政之命脈、雖名為学会、實兼地方議會之規模。

⑯ 同前 318頁

蓋當時正德人侵奪膠州之時、列國分割中國之論大起、故湖南志士人人作亡後之圖、思保湖南之獨立、而獨立之舉、非可空言、必其人民習於政術、能有自治之實際然後可、故先為此会以講習之、以為他日之基、且將因此而推諸於南部各省、則他日雖遇分割、而南支那猶可以不亡、此会之所以名為南学也。

⑰ 同前 318頁

南学会實隱寓衆議院之規模、課吏堂實隱寓貴族院之規模、新政局實隱寓中央政府之規模。

⑱ 唐才常、譚嗣同等撰『湘報類纂』(一、二) 大通書局版 民國57年 493頁。

一、本学会。專以開濬知識。恢張能力、拓充公益為主義。凡旧日所有拘墟之習。騎牆之見。入此会者。務宜屏除

⑲ 同前 494頁

一、本学会会友。不拘何鄉之人。皆可充当。其別有三。一曰議事会友。皆以品学兼著名望孚洽者充之。凡会中事務章程。均由議事会友議定。交会中坐弁人承弁。一曰講論会友。定期集講。隨時問難。一曰通信会友。遠道寄函。隨時酬答。

⑳ 同前

一、議事会友。現以創議諸人為之。俟規模大定。再於諸会友中隨時公舉。

㉑ 同前

一、講論会友擬公举學問深遠。長於弁說者。請其講論。講期每月四次。遇房虛昴星之日。即為講論之期。其余諸友。可於開会之日。齊集会講。其有疑義新理。可以紙筆互相問難。

㉒ 同前

一、本学会無論官紳士庶。既登会籍。俱作為会友。一切平等。略貴賤之分。即以通上下之氣。去壅閼之習。凡入会者務知此意。

㉓ 同前

一、入本学会者。可任意捐資若干。為会中贖囚籍擴充經費之用。或願捐新旧各種書籍亦可。

㉔ 同前

一、本学会學術。不立專門。如有融貫中西濬名心力。著為論說。或創造因器。有益民生者。其論說則由本学会選刊行世。其因器則仿西國文憑之例。給予專憑。俾相授受。

㉕ 同前 495頁

一、通信会友。凡居址遠者來否会講。聽其自便。至外府外省。尤可彼此函商。或自將所学演論成帙。郵寄会中。互相攷驗。亦挾其佳者選刊行世。

㉖ 同前

一、会中現設坐弁人二員。每月酌給薪水。

⑩ 同前

一、南学会。為湘省開辦学会之起点。應以本学会為通省学会之總會。其各府州縣統立之学会。皆為分会。

⑪ 同前 496頁

一、凡分学会之董理紳士。皆應先入本学会籍。……

⑫ 同前

一、凡籌集經費。或擬撥官款。或酌議民捐。及一切關涉学会之事。皆由会紳議妥。……

⑬ 同前 497頁

一、凡農工商畝醫武備水師女學。各学会学堂。皆須連合於分会。受成於本会。遇事知照。教益均霑。

⑭ 同前 498頁

一、学会由湖南起点。將來通之鄰省。通之外国。力量益宏。

⑮ 同前 503頁

一、南学会為總會。各府州縣為分会。不必另立名目。

⑯ 同前 504頁

一、凡教官。必入南学会。

⑰ 同前 499頁

一、凡入会者。應由会友三人切實出保。實係有志嚮學者。當由会中公議。允者過半。方准入会。

⑱ 同前

一、不拘何業之人。但德才蘊有可取者。均准入会。

⑲ 同前

一、本会思拯時艱。原欲諸友精研政藝。如京師大学堂天地道政文武農工商醫等科。宜認習一學。或但求大略。或專門講求。均可不拘。

⑳ 同前

一、凡入会者。應各酌捐銀若干兩。或捐書器亦可。即書於名紙下。

㉑ 同前 500頁

一、本会設立藏書處。凡古今中外有用之書。陸續購置。其尤要者。多置數本。以便有志嚮學者。恣觀各書。

㉒ 同前 136頁

……京師設立学会。自親王各大臣以下。皆入会講學之例。先設南学總會於省城。隨即通行各府州縣。亦設南学分会以期推廣。……

㉓ 同前 156—158頁

中東戰後。割地賠款。為千古未有之奇禍。海外強兵五六。協以謀我。……德鄰之不孤。庶強學之有望。爰有羣萌学会之設。……伏誦南学会章。凡各府州縣設有学会者。俱可作為分会。……本学会誼屬附庸。擬即改名劉陽南学分会。……伏希照章稟請。頒發鈐記。

㉔ 同前 159—161頁

㉕ 同前 161頁

() 内は筆者の註

湖南言新法。自貴邑興算。而湘鄉東山精舍常德德山書院。連騰而起。自省城建南学会。而岳州衡州武岡各屬。踵武而興。風氣漸開。愈推愈廣。

④⑥ 梁啓超『戊戌政變記』 317頁

先由巡撫派選本地紳士十人為總會長、繼由此十人各舉所知展轉汲引以為會員、每州每縣皆必有會員三人至十人之數、選各州縣好義愛國之人為之。

④⑦ 同前 317-318頁

() 内は筆者の註

會中每七日一演說、巡撫學政率官吏臨會、黃遵憲譚嗣同梁啓超及學長□□□等、輪日演說中外大勢政治原理行政學等、欲以激發保教愛國之熱心、養成地方自治之氣力、將以半年之後、選會員之高等、留為省會之會員、其次者則散歸各州縣為一州一縣之分會員。

④⑧ 同前 247頁

……皆君所倡論擘畫者、而以南学会最為盛業、設會之意、符合南部諸省志士連為一氣、相與講愛國之理、求救亡之法、而先從湖南一省弁起、蓋實学会與地方議會之規模焉、地方有事公議而行、此議會之意也、每七日大集眾而講學、演說万国大勢、及政學原理、此学会之意也、於時君實為學長、任演說之事、每合集者千數百人、君慷慨論天下事、聞者無不感動、故湖南全省風氣大開、君之功居多。

④⑨ 唐才常、譚嗣同等撰前掲書299-302頁

⑤① 同前 302-307頁

⑤② 同前 307-316頁

⑤③ 同前 310頁

所求於諸君者、自治其身、自治其鄉而已矣。

⑤④ 同前 311頁

官民上下、同心同德、以連合之力、收羣謀之益、生於其鄉。

⑤⑤ 同前 311-316頁

⑤⑥ 同前 316-318頁

⑤⑦ 同前 318-322頁

⑤⑧ 同前 322頁

⑤⑨ 同前 324-331頁

⑥① 同前 331-333頁

⑥② 同前 333-334頁

⑥③ 同前 334-335頁

譚嗣同『譚嗣同全集』 126-128頁 大安 1966年

⑥④ 唐才常、譚嗣同等撰前掲書 334-335頁

譚嗣同 前掲書 126-127頁

……溯自道光以後、通商諸事、因應失宜致釀成今日之衰弱、……諸君素懷忠君愛國之忱、諒必同深此耻、故願與諸君購明今日危急情形、共相勉為実學、以救此至危急之局。

⑥⑤ 唐才常、譚嗣同等撰 前掲書 335-338頁

譚嗣同 前掲書 128-130頁

- ⑤④ 唐才常、譚嗣同等撰 前揭書 336—338頁
譚嗣同 前揭書 128—130頁
……絕大素王之學術、開於孔子、……蓋學近來所謂新學新理者、無一不萌芽於是。以此見吾聖教之精
微博大、為古今中外所不能越；又以見彼此不謀而合者、乃地球之公理；……諸君但先講用此理、……
又以知吾身所處之地球、……
- ⑤⑤ 唐才常、譚嗣同等撰 前揭書 338—341頁
譚嗣同前揭書 130—133頁
- ⑤⑥ 唐才常、譚嗣同等撰 前揭書 340頁
譚嗣同 前揭書 132頁
……鄙人今日所以反覆成一驕字者、因為學会上所重的是學、人一驕便不能為學、是以第一要去驕字。
不驕方能師人之長、而自成其學；有學而國乃可以不亡矣。
- ⑤⑦ 唐才常、譚嗣同等撰 前揭書 341—345頁
譚嗣同 前揭書 133—136頁
- ⑤⑧ 唐才常、譚嗣同等撰 前揭書 344—345頁
譚嗣同 前揭書 136頁
……今欲人人皆明此理、皆破除畛域、出而任事、又非學會不可。故今日救亡保命、至急不可緩之上策、
無過於學會者、吾願各府州縣就所有之書院、概改為學堂學會、一面造就人材、一面連合衆力、官民上
下、通為一氣、相維相繫、協心會謀、則內患其可以泯矣、人人之全体、其可以安矣。
- ⑤⑨ 唐才常、譚嗣同等撰 前揭書 347—349頁
- ⑥⑩ 同前 350—354頁
- ⑥⑪ 同前 354—359頁
- ⑥⑫ 同前 359—365頁
- ⑥⑬ 同前 365—370頁
- ⑥⑭ 同前 370—375頁
- ⑥⑮ 同前 375—380頁
- ⑥⑯ 同前 380—385頁
- ⑥⑰ 同前 385—390頁
- ⑥⑱ 同前 390—396頁
- ⑥⑲ 同前 396—402頁
- ⑥⑳ 同前 402—406頁
- ⑥㉑ 同前 347頁
湖南官紳。共議開南學會。為開通民智培植人材起見。今次開講。敢以立學會講學宗旨。
- ⑥㉒ 同前 370頁
今時事岌岌。旅順大連灣。已插俄旗。聞英法皆有變局。中國四百兆人。將有滅種滅教之懼。湖南開學
會。實為急開民智、萬不得已之計、……其最急者、一日保種、一日保教。……
- ⑥㉓ 同前 403頁
……說洋人之來、大有害於吾人、不至此也、說洋人來、全無害於吾人、亦未必然也、彼來不過通商

- 教、通商奪我之利、伝教誘我之人、既不能明阻之不来、惟有暗求与之抵拒之法、湖南甚惡洋人、而甚愛洋貨、每年流出銀錢不少、今通商在近、洋貨更多、何以塞此漏卮、抵拒通商、惟有開商学会、攷究湖南出產若干、可以製造何物、將來銷售何處、可以獲利幾倍。
- 84 同前 485頁
本館購弁機器鉛字、均由同志集貨為之、專以開風氣拓見聞為主、非藉此謀生者可比。現蒙 撫憲提款津貼常年經費、故取值極廉、僅收工本紙張之費、無論貴賤貧富士農工商、皆可閱報。
- 85 同前 486頁
本報与学堂学会連为一氣、
- 86 中国史学会主編 『戊戌变法』(四) 192頁
() 内は、筆者の註
德宗銳意行新政、湘省既設報館、興学堂、会嘉應黃公度^{遵憲}任長宝道兼署臬司、元和江建霞^標、宛平徐研甫^{仁鑄}、相繼為学政。正月、更与陳右銘、及子伯嚴、熊秉三、譚復生、戴宣翹諸公創設南学会於長沙、留公居湘延任学長、分學術政教天文輿地四門、公主講學術、黃公度講政教、譚復生講天文、鄒沅帆講輿地。
- 87 王爾敏 前掲書
佐々木 前掲論文
蘇輿『翼教叢編』 350、364頁 台湾國風出版社 1970年
- 88 唐才常、譚嗣同等撰 前掲書 目次
- 89 中国史学会主編 『戊戌变法』(四) 192頁
二月初一日、学会開講、官紳士民衆集者三百余人。
- 90 梁啓超『戊戌政變記』 247頁
每会集者千数百人。
- 91 范文瀾 前掲書 308-312頁
- 92 同前 313-315頁
- 93 同前 308-312頁、313-315頁
鄧譚州 前掲論文 24頁
- 94 湯志鈞『戊戌变法史論叢』 246頁
- 95 蘇輿前掲書 341頁
拔貢樊鍾首倡邪說背聖教敗滅倫常惑世誣民直欲邑中人士盡變禽獸而後快……將乱民樊鍾驅逐出境永不容其在籍。……
- 96 同前 341-344頁
- 97 同前 344-347頁
- 98 『德宗實錄』 卷四二八 3頁 華文書局版
- 99 菊池貴晴「唐才常の自立軍起義—变法、革命兩派の交流を中心として—」 歴史学研究170 1954年
拙論「自立軍起義について」(辛亥革命研究会 前掲書所収)
- 100 王爾敏 前掲論文 194頁